

パブリックコメントで提出された意見の概要及びご意見に対する市の考え方

令和5年2月22日から令和5年3月23日までの間、海津市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画（案）について意見等の募集を行った結果、2人の方から6件の意見をいただきました。

これらの意見の概要と、それに対する市の考え方を次のとおり公表します。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

| No | 意見の概要 | ご意見に対する市の考え方 |
|----|---|---|
| 1 | <p>海津市のチャットボットに「ChatGPT」の活用を提案</p> <p>現在の海津市のチャットボットサービスは、海津市について質問すると、的確にその情報がある海津市のホームページを紹介してくれる、役立つサービスになっています。例えば、「印鑑証明の作り方を教えてください」と聞くと、「印鑑登録証明書の取得方法を知りたい」というご質問でしょうか。という回答とともに、海津市の印鑑登録証明の申請についての案内のある、的確なホームページのアドレスが画面に出てきます。しかしながら、例えば「本人が窓口に行けない場合の、印鑑登録はできますか。その方法を教えてください。」と質問すると、「印鑑登録で登録できる印鑑・できない印鑑を知りたい」というお問い合わせでしょうか。と、頓珍漢な答えが返ってきてしまいます。難しい質問には対応できないようです。ChatGPTに海津市役所によく寄せられるQ&Aを予め学習させれば、複雑な質問にも十分対応できることが期待できます。</p> | <p>AIツールの活用は、市民サービスの向上や職員の業務効率の向上に有効であると考えます。ご提案のChatGPTや、GoogleのBard等、新しい技術の動向や環境の変化を注視しつつ、まずは、本計画（案）の11ページにありますように、現在本市で使用しているAIチャットボットの精度向上と、ホームページの内容の充実を図ってまいります。</p> <p>ご提案のChatGPTの活用につきましては、今後、施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。</p> |

| | | |
|----------|---|---|
| <p>2</p> | <p>電子申請システムの拡充・改善</p> <p>海津市が受け付ける届出や申請について、電子申請システムを導入することで、市民が自宅などから簡単に申請できるようになります。電子申請システムは、書類の提出や受領の確認、申請状況の確認など、手続きがオンラインで行えるため、市民が市役所へ行く必要がなくなります。</p> | <p>本計画（案）の 10 ページの表「行政手続のオンライン化」 「主な取組み」の中で、「汎用申請ツールを活用し、順次オンライン化を進める」と記載している通り、令和 4 年度に構築した汎用申請ツールを幅広く活用し、様々な手続きがオンラインで完結できるよう進めてまいります。</p> <p>政府が進めている書面・押印・対面規制の見直しや、マイナポータル機能強化・範囲拡大等、今後の変化に柔軟に対応するためには、新規に電子申請システムを導入するのではなく、既存の汎用申請ツールを有効に活用したいと考えます。</p> |
| <p>3</p> | <p>マイナンバーカード以外のデジタル署名や本人証明の導入</p> <p>マイナンバーカードの本人証明以外にも、電子署名や顔認証、指紋認証、虹彩（角膜）認証などの技術があります。電子申請システムでの書類提出時に、市民が電子署名を使用できるようにすることで、オンライン上での申請書類や届出のやり取りが可能になります。これにより、市民が印刷・郵送をする必要がなくなり、書類のやりとりが電子化されます。また、窓口でもこれらの認証システムを導入すれば、申請者は、申請内容を画面で確認して電子サインするような、書かない窓口が実現します。</p> | <p>本計画（案）の 11 ページに記載の通り、令和 4 年度にマイナンバーカードによるオンライン申請の仕組みを応用した、書かない窓口の運用を開始しました。今後も市民の利便性が向上するよう、書かない窓口の範囲を拡大してまいります。</p> <p>生体認証等の新しい認証システムの導入に関しましては、今後、施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。</p> |

| | | |
|----------|--|--|
| <p>4</p> | <p>IT人材の確保の提案</p> <p>海津市のDX推進計画案では、情報化人材育成の計画が掲げられており、その取り組みの目標として統計データの利活用方法、データサイエンスの知識習得とあります。DX推進で求められていることは、これからのデジタル社会に柔軟に対応できる組織の構築ではないでしょうか。全てのシステム開発を外部に丸投げしてしまうと、柔軟な対応はできません。教育の目標は、システム開発を内製化できる人材の育成とし、外部からのIT人材の登用も視野に入れた制度の構築を提案します。</p> | <p>ご提案の通り、IT人材の確保は重要な課題であると認識しております。デジタル化が加速する中で、コア業務に携わる職員のスキルアップは喫緊の課題であり、データを活用した政策立案ができる行政職員の育成を優先的に進めます。</p> <p>本市では、令和3年度にシステム関連の専門知識を有する人材を、民間から職員として採用し、DX推進やIT人材育成に従事させております。</p> <p>システム開発を内製化できる人材の育成、外部からのIT人材の登用につきましては、今後、施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。</p> |
| <p>5</p> | <p>既存の固定観念、枠組みに拘らず、やがて来るであろうデジタル化時代に対応した独立した専門機構として発足させては、、、(デジタル部、課?)</p> <p>・そのためには、専門的な知識を兼ね備えた人材の確保、育成が必須となると考えられるが必要に応じ専門スタッフの民間人のスカウトや中途採用など弾力性に富んだ柔軟な思考で運用、推進されること願いたい</p> | <p>ご提案の通り、IT人材の確保は重要な課題であると認識しております。デジタル化が加速する中で、コア業務に携わる職員のスキルアップは喫緊の課題であり、データを活用した政策立案ができる行政職員の育成を優先的に進めます。</p> <p>本市では、令和3年度にシステム関連の専門知識を有する人材を、民間から職員として採用し、DX推進やIT人材育成に従事させております。</p> <p>専門機構の発足につきましては、今後、施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| 6 | <p>例えば、”デジタル都市宣言”デジタル化を未来の海津市のあるべき姿として人口減少、交通、観光、農業等の分野で活かす知恵集団として（データ分析と、ソフトの開発から実行まで）</p> <ul style="list-style-type: none">・統合で既に廃校になっている、廃校が予想される施設をリニューアル、主に、資金が潤沢でなくオフィスが持てない起業家向けに、デジタル関連であったり、リモート目的でのオフィスとして幅広い用途に提供する構想計画を、オフィス、パブリック広場、簡易宿泊施設の提供、主設備は市で細部工事は利用者負担など方法はあと思う（企業誘致は工場だけではないという発想で）・現状の交通体系（コミュニティバス、デマンド交通）をデジタルツールの活用することにより、利便性やコストカットの削減が可能になると思っている（利用先・時間帯、年齢層、市内・市外通勤通学、病院、買物、行政機関の各種データ収集・分析）・自治体により”デジタル田園都市構想”先行して実践出来ている所、民間で類似した案件で成果を上げている自治体、企業の中でも類似案件あるはず、それらを参考に、当市独自の取り組みを立案、”デジタル都市・海津”の一面を構築してほしい | <p>本計画は、デジタルを活用して、市民サービスの向上や職員の業務をより付加価値の高いものに変化させていくことを目的とした計画になります。ご提案の取組は、デジタル田園都市国家構想を実現するための基礎となるものであり、確実に進める必要があると考えます。</p> <p>デジタル田園都市国家構想の実現に向けた取組については、来年度、総合戦略の中で計画させていただきます。</p> |
|---|--|---|